



サーバのインストール

- 設置の準備 (1 ページ)
- 2 支柱ラック エクステンダの取り付け (4 ページ)
- ラックへのサーバの設置 (5 ページ)
- サーバの初期設定 (8 ページ)
- NIC モードおよび NIC 冗長性設定 (14 ページ)
- BIOS および Cisco IMC のファームウェアの更新 (15 ページ)
- システム BIOS へのアクセス (16 ページ)
- スマート アクセス (シリアル) (16 ページ)
- スマート アクセス (USB) (17 ページ)

設置の準備

ここでは、次の内容について説明します。

設置に関する警告およびガイドライン



- (注) サーバの設置、操作、または保守を行う前に、『[Cisco UCSC-シリーズサーバの規制コンプライアンスと安全性情報](#)』を参照して重要な安全情報を確認してください。
-



警告 安全上の重要な注意事項

この警告マークは「危険」の意味です。人身事故を予防するための注意事項が記述されています。機器の取り扱い作業を行うときは、電気回路の危険性に注意し、一般的な事故防止対策に留意してください。各警告の最後に記載されているステートメント番号を基に、装置に付属の安全についての警告を参照してください。

ステートメント 1071



警告 システムの過熱を防ぐため、最大推奨周囲温度の 35°C (95°F) を超えるエリアで操作しないでください。

ステートメント 1047



警告 いつでも装置の電源を切断できるように、プラグおよびソケットにすぐ手が届く状態にしておいてください。

ステートメント 1019



警告 この製品は、設置する建物に短絡（過電流）保護機構が備わっていることを前提に設計されています。この保護装置の定格が 250 V、15 A 以下であることを確認します。

ステートメント 1005



警告 装置は地域および国の電気規則に従って設置する必要があります。

ステートメント 1074



警告 この装置は、立ち入りが制限された場所への設置を前提としています。立ち入りが制限された場所とは、特殊な器具、錠と鍵、またはその他の保安手段を使用しないと入れない場所を意味します。

ステートメント 1017



注意 サーバを取り付ける際は、適切なエアフローを確保するために、レールキットを使用する必要があります。レールキットを使用せずに、ユニットを別のユニットの上に物理的に置く、つまり「積み重ねる」と、サーバの上部にある通気口がふさがれ、過熱したり、ファンの回転が速くなったり、電力消費が高くなったりする原因となる可能性があります。サーバをラックに取り付けるときは、これらのレールによりサーバ間で必要な最小の間隔が提供されるので、レールキットにサーバをマウントすることを推奨します。レールキットを使用してユニットをマウントする場合は、サーバ間の間隔を余分にとる必要はありません。



注意 鉄共振技術を採用している無停電電源装置（UPS）は使用しないでください。このタイプの UPS は、Cisco UCS などのシステムに使用すると、データトラフィックパターンの変化によって入力電流が大きく変動し、動作が不安定になるおそれがあります。

サーバを設置する際には、次のガイドラインに従ってください。

- サーバを設置する前に、設置場所の構成を計画し、設置環境を整えます。設置場所を計画する際に推奨される作業については、『[Cisco UCS サイト準備ガイド](#)』を参照してください。
- サーバの周囲に、サーバへのアクセスおよび適切な通気のための十分なスペースがあることを確認します。サーバ内では前面から背面へ空気が流れます。
- 空調が、[環境仕様](#)に記載された温度要件に適合していることを確認します。
- キャビネットまたはラックが、[ラックに関する要件](#)に記載された要件に適合していることを確認します。
- 設置場所の電源が、[電力仕様](#)に記載された電源要件に適合していることを確認します。使用可能な場合は、電源障害に備えて無停電電源装置（UPS）を使用してください。

ラックに関する要件

次のタイプのラックを使用する必要があります。

- 標準的な 19 インチ（48.3 cm）幅 4 支柱 EIA ラック（ANSI/EIA-310-D-1992 のセクション 1 に準拠した英国ユニバーサル ピッチに適合するマウント支柱付き）。
- 標準の 19 インチ（48.3 cm）幅の 2 支柱 EIA ラック（エクステンダブラケットキットでのみ使用可能）
- 付属のシスコ製スライドレールを使用する場合、ラック支柱の穴は、9.6 mm（0.38 インチ）の正方形、7.1 mm（0.28 インチ）の丸形、#12-24 UNC、または #10-32 UNC になります。
- サーバあたりの縦方向の最小ラックスペースは、2 RU（ラックユニット）、つまり 88.9 mm（3.5 インチ）である必要があります。

サポートされるシスコ製スライドレールキット

サーバは、次のレールキット オプションをサポートします。

- シスコ部品 UCSC-RAILS-M5（ボールベアリングスライドレールキット）
- 2 支柱ラックレール取り付け用のエクステンダブラケットキット（UCSC-C240SD-EXT）

ラックの設置に必要な工具

シスコが販売するこのサーバ用のスライドレールの場合、設置に必要な工具はありません。

スライドレール

このサーバのスライドレールの調整範囲は 24 ～ 36 インチ（610 ～ 914 mm）です。

2支柱ラック エクステンダの取り付け



警告 ラックにこの装置をマウントしたり、ラック上の装置の作業を行うときは、ケガをしないように、装置が安定した状態に置かれていることを十分に確認してください。安全を確保するために、次のガイドラインを守ってください。

ラックに設置する装置が1台だけの場合は、ラックの一番下に取り付けます。

ラックに複数の装置を設置する場合は、最も重い装置を一番下に設置して、下から順番に取り付けます。

ラックにスタビライザが付いている場合は、スタビライザを取り付けてから、ラックに装置を設置したり、ラック内の装置を保守したりしてください。

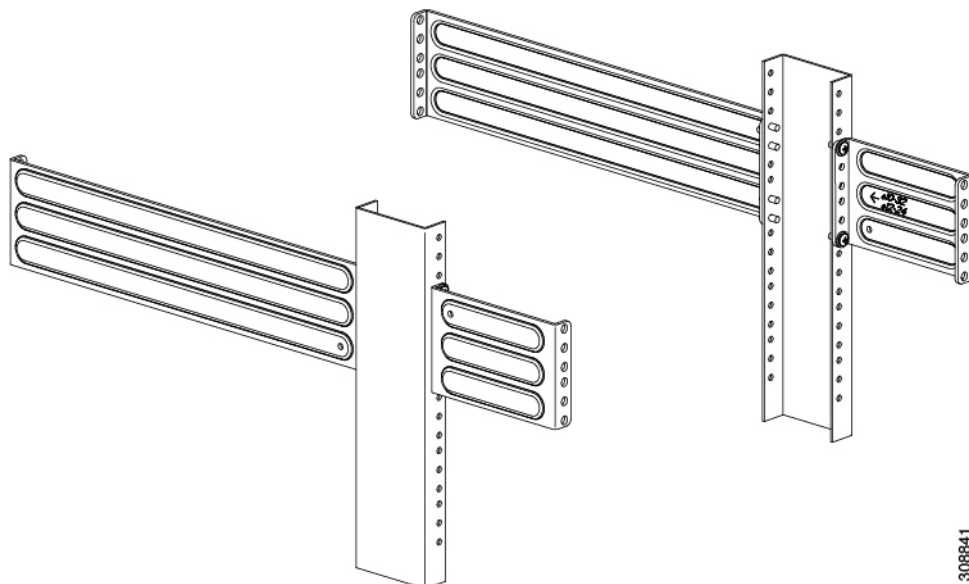
ステートメント 1006

ステップ1 片側の短いブラケットの端を、使用する前面ラック支柱の穴の位置に合わせます。フランジが内側を向いていることを確認します。図 1:2支柱ラック エクステンダ (4 ページ) を参照してください。

下部に1本、上部に1本のネジを使用して、ブラケットを支柱に固定します。

(注) 角穴のレール支柱の場合は、まずブラケットを取り付ける前に角ナットをカチッとはめ込みます。

図 1:2支柱ラック エクステンダ



ステップ2 繰り返し、反対側の支柱に2番目に短いブラケットを取り付けます。2つのブラケットが同じ高さであり、水平になっていることを確認します。

ステップ3 長い方のブラケットの端をラック支柱の穴の背面に合わせます。フランジが内側を向いていることを確認します。長いブラケットが短いブラケットと同じ高さであること。[図 1:2 支柱ラック エクステンダ \(4 ページ\)](#) を参照してください。

下部に 2 本、上部に 2 本のネジを使用して、ブラケットを支柱に固定します。

(注) 角穴のレール支柱の場合は、まずブラケットを取り付ける前に角ナットをカチッとはめ込みます。

次のタスク

ラックにスライドレールとサーバを取り付ける手順 [ラックへのサーバの設置 \(5 ページ\)](#) を実行します。

ラックへのサーバの設置



警告 ラックにこの装置をマウントしたり、ラック上の装置の作業を行うときは、ケガをしないように、装置が安定した状態に置かれていることを十分に確認してください。安全を確保するために、次のガイドラインを守ってください。

ラックに設置する装置が 1 台だけの場合は、ラックの一番下に取り付けます。

ラックに複数の装置を設置する場合は、最も重い装置を一番下に設置して、下から順番に取り付けます。

ラックにスタビライザが付いている場合は、スタビライザを取り付けてから、ラックに装置を設置したり、ラック内の装置を保守したりしてください。

ステートメント 1006

始める前に

サーバを 2 支柱ラックに取り付ける場合は、エクステンダキットが取り付けられていることを確認します。[2 支柱ラック エクステンダの取り付け \(4 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ1 内側と外側のレールは、組み立てられた状態で出荷されます。内側レールと外側レールを分離します。

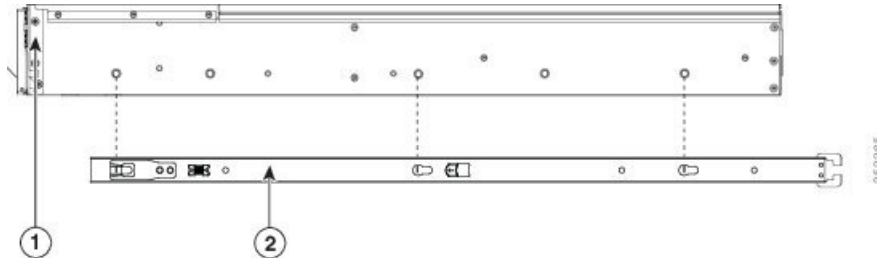
1. 内部のレールをスライドさせて、内部の止め具に当たります。
2. バネ付きロックボタンを矢印の方向にスライドさせて（ボタンに表示）、外側のレールから外し、同時にレールを引き出します。

ステップ2 サーバの側面に内側レールを装着します。

- a) レール内の 3 つのキー付きスロットがサーバ側面の 3 個のペグの位置に合うように、内側レールをサーバの一方の側の位置に合わせます。

- b) キー付きスロットをペグに設定し、レールを前面に向けてスライドさせて、ペグの所定の位置にロックします。前面スロットには、前面ペグにロックするための金属製クリップがあります。
- c) 2つ目の内側レールをサーバの反対側に取り付けます。

図 2: サーバ側面への内側レールの取り付け

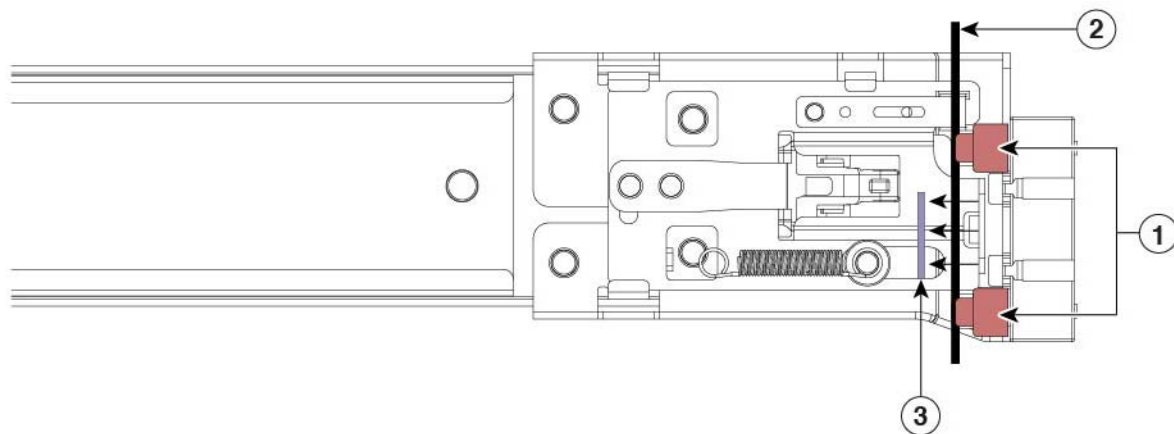


1	サーバの前面	2	内側レール
---	--------	---	-------

ステップ 3 両方のスライドレール部品で前面の固定プレートを開きます。スライドレール部品の前端に、バネ仕掛けの固定プレートがあります。取り付けペグをラック支柱の穴に挿入する前に、この固定プレートが開いている必要があります。

部品の外側で、背面を向いている緑色の矢印ボタンを押して、固定プレートを開きます。

図 3: 前面の固定部分、前端の内側



1	前面側の取り付けペグ	3	開いた位置に引き戻された固定プレート
2	取り付けペグと開いた固定プレートとの間のラック支柱	-	

ステップ 4 外側のスライドレールをラックに取り付けます。

- a) 片側のスライドレール部品の前端を、使用する前面ラック支柱の穴の位置に合わせます。

スライドレールの前部がラック支柱の外側を回り込むように配置され、取り付けペグが外側の前部からラック支柱の穴に入ります。図 3: 前面の固定部分、前端の内側 (6 ページ) を参照してください。

(注) ラック支柱は、取り付けペグと開いた固定プレートの間にある必要があります。

- b) 取り付けペグを、外側前面からラック支柱の穴に押し込みます。
- c) 「PUSH」のマークが付いた固定プレートのリリースボタンを押します。ばね仕掛けの固定プレートが閉じて、ペグが所定の位置にロックされます。
- d) スライドレールの長さを調整し、スライドレールアセンブリの後端を対応する背面ラック支柱の穴に合わせます。スライドレールは前面から背面に向かって水平である必要があります。

背面取り付けペグを、ラック支柱の内側から背面ラック支柱の穴に入れます。

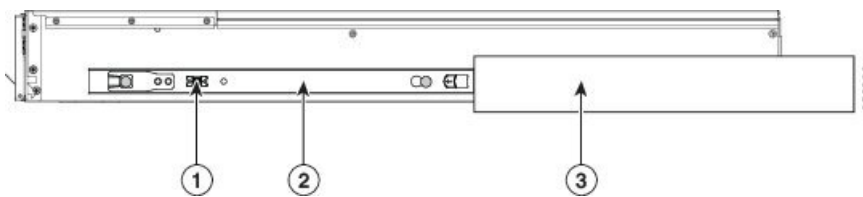
- e) ロックレバーを内側に押し、同時に対応する背面ラック支柱の穴に背面取り付けペグを押し込みます。
- f) 取り付けペグを取り付けたら、ロックレバーを放します。
- g) 2つ目のスライドレール部品を、ラックの反対側に取り付けます。2つのスライドレール部品が同じ高さであり、水平になっていることを確認します。
- h) 所定の位置に収まって留まるまで、各部品の内側のスライドレールをラック前方へ引き出します。

ステップ5 サーバを次のようにスライドレールに装着します。

注意 このサーバは、コンポーネントがフルに搭載されている場合、最大で 18 kg (40 ポンド) の重量になります。サーバを持ち上げるときは、2人以上で行うか、リフトを使用することを推奨します。この手順を1人で実行しようとする、怪我や機器の損傷を招くおそれがあります。

- a) サーバの側面に装着されている内側レールの後端を、ラック上の空のスライドレールの前端の位置に合わせます。
- b) 内部の停止位置で止まるまで、内側レールをラック上のスライドレールに押し込みます。
- c) 両方の内側レールで内側レールリリースクリップを背面に向けてスライドさせたら、前面のスラムラッチがラック支柱に収まるまで、サーバをラックに押し込みます。

図4:内側レールリリースクリップ



1	内側レール リリース クリップ	3	ラック支柱に装着されている外側スライドレール
2	サーバに装着され、外側のスライドレールに挿入されている内側レール	-	

サーバの初期設定



- (注) ここでは、サーバをスタンドアロンモードで使用する場合のサーバの電源投入方法、IP アドレスの割り当て方法、サーバ管理への接続方法について説明します。サーバを Cisco UCS Manager の統合で使用する場合は、特定のケーブル接続および設定が必要です。[Cisco UCS Manager 統合に適した設置方法](#)を参照してください。

サーバのデフォルト設定

サーバは次のデフォルト設定で出荷されます。

- NIC モードは *Shared LOM EXT* です。

Shared LOM EXT モードでは、1 Gb/10 Gb イーサネットポートおよび取り付け済みの Cisco 仮想インターフェイスカード (VIC) 上のすべてのポートが、Cisco Integrated Management Interface (Cisco IMC) にアクセスできます。10/100/1000 専用管理ポートを使用して Cisco IMC にアクセスする場合は、[Cisco IMC 設定ユーティリティを使用したシステムのセットアップ \(11 ページ\)](#) の説明に従って、サーバに接続して NIC モードを変更できます。

- NIC の冗長性はアクティブ-アクティブです。すべてのイーサネットポートが同時に使用されます。
- DHCP は有効になっています。
- IPv4 は有効です。

接続方法

システムに接続して初期設定を行うには、次の2つの方法があります。

- ローカル設定：キーボードとモニタをシステムに直接接続して設定を行う場合は、この手順を使用します。この手順では、サーバの前面にある VGA ポートと USB ポートを使用できます。
- リモート設定：専用管理 LAN 経由で設定を行う場合は、この手順を使用します。



- (注) システムをリモートで設定するには、システムと同じネットワーク上に DHCP サーバが存在する必要があります。このサーバノードの MAC アドレスの範囲を、DHCP サーバにあらかじめ設定しておく必要があります。MAC アドレスは、前面パネルの引き抜きアセットタグにあるラベルに印字されています。このサーバノードでは、Cisco IMC に6つの MAC アドレスの範囲が割り当てられています。ラベルに印字されている MAC アドレスは、6つの連続 MAC アドレスのうち最初のものです。

ローカル接続によるサーバの設定

この手順には、次の機器が必要です。

- VGA モニタ
- USB キーボード
- サポートされている USB ケーブルおよび VGA DB-15 ケーブル

ステップ 1 電源コードをサーバの各電源装置に接続し、次に、接地された AC 電源コンセントに各コードを接続します。

DC 電源装置を使用している場合は、[DC 電源装置の取り付け \(初回の取り付け\)](#) を参照してください。

初回のブート時には、サーバが起動してスタンバイ電源モードになるまでに約 2 分かかります。システムの電源ステータスは、前面パネルのシステムの電源ステータス LED で確認できます。LED がオレンジの場合、サーバはスタンバイ電源モードです。

ステップ 2 USB キーボードとマウス、VGA モニタを前面パネルの対応するコネクタに接続します。

ステップ 3 Cisco IMC 設定ユーティリティを開きます。

- 前面パネルの電源ボタンを 4 秒間長押しして、サーバを起動します。
- ブートアップ時に、Cisco IMC 設定ユーティリティを開くよう求められたら **F8** を押します。

(注) Cisco IMC 設定ユーティリティを初めて開始すると、デフォルトのパスワードの変更を要求するプロンプトが表示されます。デフォルトパスワードは *password* です。強力なパスワード機能が有効になっています。

強力なパスワードの要件は、次のとおりです。

- パスワードは最低 8 文字、最大 14 文字とすること。
- パスワードには、ユーザ名を含めないでください。
- パスワードには次の 4 つのカテゴリの中から 3 つに該当する文字を含めること。
 - 大文字の英字 (A ~ Z)
 - 小文字の英字 (a ~ z)
 - 10 進数の数字 (0 ~ 9)
 - 非アルファベット文字 (!, @, #, \$, %, ^, &, *, -, _, =, ")。

ステップ 4 [Cisco IMC 設定ユーティリティを使用したシステムのセットアップ \(11 ページ\)](#) に進みます。

リモート接続によるサーバの設定

この手順には、次の機器が必要です。

- 管理 LAN に接続された RJ-45 イーサネット ケーブル X 1。

始める前に



- (注) システムをリモートで設定するには、システムと同じネットワーク上に DHCP サーバが存在する必要があります。このサーバノードの MAC アドレスの範囲を、DHCP サーバにあらかじめ設定しておく必要があります。MAC アドレスは、前面パネルの引き抜きアセット タグにあるラベルに印字されています。このサーバノードでは、Cisco IMC に 6 つの MAC アドレスの範囲が割り当てられています。ラベルに印字されている MAC アドレスは、6 つの連続 MAC アドレスのうち最初のものです。

ステップ 1 電源コードをサーバの各電源装置に接続し、次に、接地された AC 電源コンセントに各コードを接続します。

DC 電源装置を使用している場合は、[DC 電源装置の取り付け \(初回の取り付け\)](#) を参照してください。

初回のブート時には、サーバが起動してスタンバイ電源モードになるまでに約 2 分かかります。システムの電源ステータスは、前面パネルのシステムの電源ステータス LED で確認できます。LED がオレンジの場合、サーバはスタンバイ電源モードです。

ステップ 2 管理イーサネット ケーブルを前面パネルの専用管理ポートに差し込みます。

ステップ 3 事前設定された DHCP サーバで、サーバノードに IP アドレスを割り当てられるようにします。

ステップ 4 割り当てられた IP アドレスを使用して、サーバノードの Cisco IMC にアクセスし、ログインします。IP アドレスを特定するには、DHCP サーバの管理者に相談してください。

- (注) サーバのデフォルトのユーザ名は *admin*、デフォルト パスワードは *password* です。

ステップ 5 Cisco IMC サーバの [Summary] ページで、[Launch KVM Console] をクリックします。別の KVM コンソール ウィンドウが開きます。

ステップ 6 Cisco IMC の [Summary] ページで、[Power Cycle Server] をクリックします。システムがリブートします。

ステップ 7 KVM コンソール ウィンドウを選択します。

- (注) 次のキーボード操作を有効にするには、KVM コンソール ウィンドウがアクティブ ウィンドウである必要があります。

ステップ 8 プロンプトが表示されたら、F8 を押して、Cisco IMC 設定ユーティリティを起動します。このユーティリティは、KVM コンソール ウィンドウで開きます。

- (注) Cisco IMC 設定ユーティリティを初めて開始すると、デフォルトのパスワードの変更を要求するプロンプトが表示されます。デフォルト パスワードは *password* です。強力なパスワード機能が有効になっています。

強力なパスワードの要件は、次のとおりです。

- パスワードは最低 8 文字、最大 14 文字とすること。
- パスワードにユーザ名を含めないこと。
- パスワードには次の 4 つのカテゴリの中から 3 つに該当する文字を含めること。
 - 大文字の英字 (A ~ Z)
 - 小文字の英字 (a ~ z)
 - 10 進数の数字 (0 ~ 9)
 - 非アルファベット文字 (!, @, #, \$, %, ^, &, *, -, _, =, ")。

ステップ 9 [Cisco IMC 設定ユーティリティを使用したシステムのセットアップ \(11 ページ\)](#) に進みます。

Cisco IMC 設定ユーティリティを使用したシステムのセットアップ

始める前に

システムに接続して Cisco IMC 設定ユーティリティを開いた後に、次の手順を実行します。

ステップ 1 NIC モードを設定して、サーバ管理用の Cisco IMC へのアクセスに使用するポートを選択します。

- *[Shared LOM EXT]* (デフォルト) : これは、工場出荷時設定の Shared LOM 拡張モードです。このモードでは、Shared LOM インターフェイスと Cisco Card インターフェイスの両方がイネーブルです。次のステップで、NIC 冗長性設定にデフォルトの *[Active-Active]* を選択する必要があります。

NIC モードでは、DHCP 応答が Shared LOM ポートと Cisco カードポートの両方に返されます。サーバがスタンドアロンモードであるために、Cisco カード接続でその IP アドレスが Cisco UCS Manager システムから取得されないと判別された場合は、その Cisco カードからのその後の DHCP 要求はディセーブルになります。スタンドアロンモードで Cisco カードを介して Cisco IMC に接続する場合は、Cisco Card NIC モードを使用します。

- *[Shared LOM]* : Cisco IMC へのアクセスに 1 Gb/10 Gb イーサネットポートを使用します。次のステップで、NIC 冗長性設定に *[Active-Active]* または *[Active-standby]* を選択する必要があります。
- *[Dedicated]* : Cisco IMC へのアクセスに専用管理ポートを使用します。次のステップで、NIC 冗長性設定に *[None]* を選択する必要があります。
- *[Cisco Card]* : Cisco IMC へのアクセスに取り付け済みの Cisco UCS 仮想インターフェイスカード (VIC) のポートを使用します。次のステップで、NIC 冗長性設定に *[Active-Active]* または *[Active-standby]* を選択する必要があります。

必須の VIC スロットの設定も下記で参照してください。

- [VIC Slot] : Cisco Card NIC モードを使用する場合にのみ、VIC を取り付けられた場所に合わせて、この設定を選択する必要があります。Riser1、Riser2、または Flex-LOM (mLOM スロット) のいずれかを選択します。
 - PCIe ライザー 1 と 2B を組み合わせたサーバの場合 :
 - [Riser1] を選択した場合は、スロット 2 に VIC を取り付ける必要があります。
 - [Riser2] を選択した場合は、スロット 5 に VIC を取り付ける必要があります。
 - PCIe ライザー 1C と 2E を組み合わせたサーバの場合 :
 - [Riser1] を選択した場合は、スロット 1 に VIC を取り付ける必要があります。
 - [Riser2] を選択した場合は、スロット 2 に VIC を取り付ける必要があります。
 - [Flex-LOM] を選択した場合は、mLOM スロットに mLOM タイプの VIC を取り付ける必要があります。

ステップ 2 必要に応じて、NIC 冗長性を設定します。このサーバでは、次の 3 つの NIC 冗長性設定を行うことができます。

- [None] : イーサネット ポートは個別に動作し、問題が発生した場合にフェールオーバーを行いません。この設定は、専用 NIC モードでのみ使用できます。
- [Active-standby] : アクティブなイーサネット ポートに障害が発生した場合、スタンバイ ポートにトラフィックがフェールオーバーします。Shared LOM と Cisco Card モードでは、それぞれ [Active-standby] と [Active-active] の設定を使用できます。
- [Active-active] (デフォルト) : すべてのイーサネット ポートが同時に使用されます。Shared LOM EXT モードでは、この NIC 冗長性設定のみを使用する必要があります。Shared LOM と Cisco Card モードでは、それぞれ [Active-standby] と [Active-active] の設定を使用できます。

ステップ 3 ダイナミック ネットワーク設定用に DHCP をイネーブルにするか、スタティック ネットワーク設定を開始するかを選択します。

(注) DHCP をイネーブルにするには、DHCP サーバにこのサーバの MAC アドレスの範囲をあらかじめ設定しておく必要があります。MAC アドレスはサーバ背面のラベルに印字されています。このサーバでは、Cisco IMC に 6 つの MAC アドレスの範囲が割り当てられています。ラベルに印字されている MAC アドレスは、6 つの連続 MAC アドレスのうち最初のものです。

静的 IPv4 および IPv6 設定には次が含まれます。

- Cisco IMC の IP アドレス。
IPv6 の場合、有効な値は 1 ~ 127 です。
- ゲートウェイ。
IPv6 の場合、ゲートウェイが不明な場合は、:: (コロン 2 つ) を入力して none のままに設定することができます。

- 優先 DNS サーバアドレス。

IPv6 の場合、:: (コロン 2 つ) を入力してこれを `none` のままに設定することができます。

ステップ 4 (任意) VLAN の設定を行います。

ステップ 5 F1 を押して 2 番目の設定ウィンドウに移動したら、次のステップに進みます。

2 番目のウィンドウで **F2** を押すと、最初のウィンドウに戻ることができます。

ステップ 6 (任意) サーバのホスト名を設定します。

ステップ 7 (任意) ダイナミック DNS をイネーブルにし、ダイナミック DNS (DDNS) ドメインを設定します。

ステップ 8 (任意) [Factory Default] チェックボックスをオンにすると、サーバは出荷時の初期状態に戻ります。

ステップ 9 (任意) デフォルトのユーザ パスワードを設定します。

(注) サーバのデフォルトのユーザ名は `admin` です。デフォルト パスワードは `password` です。

ステップ 10 (任意) ポート設定の自動ネゴシエーションをイネーブルにするか、ポート速度およびデュプレックスモードを手動で設定します。

(注) 自動ネゴシエーションは専用 NIC モードを使用する場合にのみ使用できます。自動ネゴシエーションはサーバが接続されているスイッチ ポートに基づいて自動的にポート速度およびデュプレックスモードを設定します。自動ネゴシエーションをディセーブルにした場合、ポート速度およびデュプレックスモードを手動で設定する必要があります。

ステップ 11 (任意) ポート プロファイルとポート名をリセットします。

ステップ 12 F5 を押して、行った設定に更新します。次の手順でサーバをリブートする前は、新しい設定が表示されメッセージ「Network settings configured」が表示されるまでに約 45 秒かかる場合があります。

ステップ 13 F10 を押して設定を保存し、サーバを再起動します。

(注) DHCP のイネーブル化を選択した場合、動的に割り当てられた IP アドレスと MAC アドレスがブートアップ時にコンソール画面に表示されます。

次のタスク

ブラウザと Cisco IMC の IP アドレスを使用して、Cisco IMC 管理インターフェイスに接続します。IP アドレスは、行った設定に基づいています (スタティック アドレスまたは DHCP サーバによって割り当てられたアドレス)。



(注) サーバのデフォルトのユーザ名は `admin` です。デフォルト パスワードは `password` です。

サーバを管理するには、ご使用の Cisco IMC リリースに対応するこれらのインターフェイスの使用手順について『Cisco UCS C-Series Rack-Mount Server Configuration Guide』または『Cisco

『[UCS C-Series Rack-Mount Server CLI Configuration Guide](#)』を参照してください。構成ガイドへのリンクについては、『[Cisco UCS C-Series Documentation Roadmap](#)』を参照してください。

NIC モードおよび NIC 冗長性設定

表 1: 各 NIC モードに対する有効な NIC 冗長性設定

NIC モード	有効な NIC 冗長性設定
Shared LOM EXT	Active-active
Dedicated	なし
Shared LOM	Active-active Active-standby
Cisco Card	Active-active Active-standby

このサーバには、次のような選択可能な NIC モード設定があります。

- **[Shared LOM EXT]** (デフォルト) : これは、工場出荷時設定の Shared LOM 拡張モードです。このモードでは、Shared LOM インターフェイスと Cisco Card インターフェイスの両方がイネーブルです。次のステップで、NIC 冗長性設定にデフォルトの **[Active-Active]** を選択する必要があります。

NIC モードでは、DHCP 応答が Shared LOM ポートと Cisco カード ポートの両方に返されます。サーバがスタンドアロンモードであるために、Cisco カード接続でその IP アドレスが Cisco UCS Manager システムから取得されないと判別された場合は、その Cisco カードからのその後の DHCP 要求はディセーブルになります。スタンドアロンモードで Cisco カードを介して Cisco IMC に接続する場合は、Cisco Card NIC モードを使用します。

- **[Shared LOM]** : Cisco IMC へのアクセスに 1 Gb/10 Gb イーサネット ポートを使用します。次のステップで、NIC 冗長性設定に **[Active-Active]** または **[Active-standby]** を選択する必要があります。
- **[Dedicated]** : Cisco IMC へのアクセスに専用管理ポートを使用します。次のステップで、NIC 冗長性設定に **[None]** を選択する必要があります。
- **[Cisco Card]** : Cisco IMC へのアクセスに取り付け済みの Cisco UCS 仮想インターフェイスカード (VIC) のポートを使用します。次のステップで、NIC 冗長性設定に **[Active-Active]** または **[Active-standby]** を選択する必要があります。

必須の VIC スロットの設定も下記で参照してください。

- [VIC Slot] : Cisco Card NIC モードを使用する場合にのみ、VIC を取り付けた場所に合わせて、この設定を選択する必要があります。Riser1、Riser2、または Flex-LOM (mLOM スロット) のいずれかを選択します。
 - PCIe ライザー 1 と 2B を組み合わせたサーバの場合：
 - [Riser1] を選択した場合は、スロット 2 に VIC を取り付ける必要があります。
 - [Riser2] を選択した場合は、スロット 5 に VIC を取り付ける必要があります。
 - PCIe ライザー 1C と 2E を組み合わせたサーバの場合：
 - [Riser1] を選択した場合は、スロット 1 に VIC を取り付ける必要があります。
 - [Riser2] を選択した場合は、スロット 2 に VIC を取り付ける必要があります。
- [Flex-LOM] を選択した場合は、mLOM スロットに mLOM タイプの VIC を取り付ける必要があります。

このサーバには、次のような選択可能な NIC 冗長化設定があります。

- [None] : イーサネットポートは個別に動作し、問題が発生した場合にフェールオーバーを行いません。この設定は、専用 NIC モードでのみ使用できます。
- [Active-standby] : アクティブなイーサネットポートに障害が発生した場合、スタンバイポートにトラフィックがフェールオーバーします。Shared LOM と Cisco Card モードでは、それぞれ [Active-standby] と [Active-active] の設定を使用できます。
- [Active-active] (デフォルト) : すべてのイーサネットポートが同時に使用されます。Shared LOMEXT モードでは、この NIC 冗長性設定のみを使用する必要があります。Shared LOM と Cisco Card モードでは、それぞれ [Active-standby] と [Active-active] の設定を使用できます。

BIOS および Cisco IMC のファームウェアの更新



注意

BIOS ファームウェアをアップグレードする場合、Cisco IMC ファームウェアも同じバージョンにアップグレードする必要があります。アップグレードしないと、サーバが起動しません。BIOS と Cisco IMC のファームウェアが一致するまで電源をオフにしないでください。オフにすると、サーバが起動しなくなります。

シスコは、BIOS、Cisco IMC、およびその他のファームウェアを互換性のあるレベルに同時にアップグレードできるよう支援するために、*Cisco Host Upgrade Utility* を提供しています。

サーバには、シスコが提供し、承認しているファームウェアが使用されています。シスコは、各ファームウェアイメージと共にリリース ノートを提供しています。ファームウェアを更新するには、いくつかの方法があります。

- **ファームウェアの更新に推奨される方法**：Cisco Host Upgrade Utility を使用して、Cisco IMC、BIOS、およびコンポーネントのファームウェアを互換性のあるレベルに同時にアップグレードします。

ファームウェアリリースについては、下記のマニュアルロードマップリンクにある『[Cisco Host Upgrade Utility Quick Reference Guide](#)』を参照してください。

- Cisco IMC の GUI インターフェイスを使用して Cisco IMC と BIOS ファームウェアをアップグレードできます。

『[Cisco UCS C-Series Rack-Mount Server Configuration Guide](#)』を参照してください。

- Cisco IMC の CLI インターフェイスを使用して Cisco IMC と BIOS ファームウェアをアップグレードできます。

『[Cisco UCS C-Series Rack-Mount Server CLI Configuration Guide](#)』を参照してください。

上記のドキュメントへのリンクについては、『[Cisco UCS C-Series Documentation Roadmap](#)』を参照してください。

システム BIOS へのアクセス

ステップ 1 ブート中にメッセージが表示されたら、F2 キーを押して BIOS セットアップユーティリティに切り替えます。

(注) このユーティリティの [Main] ページに、現在の BIOS のバージョンとビルドが表示されます。

ステップ 2 矢印キーを使って、BIOS メニュー ページを選択します。

ステップ 3 矢印キーを使って、変更するフィールドを反転表示にします。

ステップ 4 Enter キーを押して変更するフィールドを選択し、そのフィールドの値を変更します。

ステップ 5 Exit メニュー画面が表示されるまで右矢印キーを押します。

ステップ 6 Exit メニュー画面の指示に従って変更内容を保存し、セットアップユーティリティを終了します（または、F10 を押します）。Esc キーを押すと、変更内容を保存せずにユーティリティを終了できます。

スマート アクセス（シリアル）

このサーバは、スマートアクセス（シリアル）機能をサポートしています。この機能により、ホストのシリアルと Cisco IMC CLI を切り替えることができます。

- この機能には、次の要件があります。
 - サーバの前面パネルにある RJ-45 シリアル コネクタを使用できるシリアル ケーブル接続。

- サーバの BIOS でコンソール リダイレクションを有効にする必要があります。
 - 端末タイプは、VT100+ または VTUFT8 に設定する必要があります。
 - Serial over LAN (SoL) を無効にする必要があります (SoL はデフォルトで無効になっています)。
- ホストのシリアルから Cisco IMC CLI に切り替えるには、Esc キーを押した状態で 9 キーを押します。
- 接続を認証するために Cisco IMC クレデンシャルを入力する必要があります。
- Cisco IMC CLI からホストのシリアルに切り替えるには、Esc キーを押した状態で 8 キーを押します。



(注) Serial over LAN (SoL) 機能が有効になっている場合は、Cisco IMC CLI に切り替えることができません。

- セッションが作成されると、CLI または Web GUI に `serial` という名前で表示されます。

スマートアクセス (USB)

このサーバは、スマートアクセス (USB) 機能をサポートしています。このサーバのボード管理コントローラ (BMC) は、大容量の USB ストレージデバイスに対応しており、そのデータにアクセスすることができます。この機能では、前面パネルの USB デバイスをメディアとして使用して、ネットワーク接続を必要とせずに BMC とユーザ間でデータを転送できます。これは、リモート BMC インターフェイスがまだ利用可能でない場合や、ネットワークの不良構成によりリモート BMC インターフェイスにアクセスできない場合などに役立ちます。

- この機能には、次の要件があります。
 - USB キーボードと VGA モニタを前面パネルの対応するコネクタに接続します。
 - 前面パネルの USB 3.0 コネクタの 1 つに接続された USB ストレージデバイス。
 - USB 3.0 ベースのデバイスを使用できますが、デバイスは USB 2.0 の速度で動作します。
 - USB デバイスには 1 つのパーティションのみを設定することをお勧めします。
 - サポートされているファイルシステム形式は、FAT16、FAT32、MSDOS、EXT2、EXT3、および EXT4 です。NTFS はサポートされません。
- スマートアクセス (USB) は、いずれかの BMC ユーザインターフェイスを使用して有効または無効にすることができます。たとえば、ブートアップ中にメッセージが表示されたときに F8 を押すことにより、Cisco IMC 設定ユーティリティを使用できます。

- 有効時：前面パネルの USB デバイスは BMC に接続されています。
- 無効時：前面パネルの USB デバイスはホストに接続されています。
- 管理ネットワークを使用してリモートで Cisco IMC に接続できない場合は、シリアルケーブルを介してデバイス ファームウェア アップデート (DFU) シェルを使用してテクニカルサポート ファイルを生成し、前面パネルの USB ポートに装着されている USB デバイスにダウンロードすることができます。